

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	○	外出の機会を多く待ち地域の方々との交流を深めるよう取り組んでいる。
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	○	各利用者の方々の思いをくみ取るよう寄り添い、話を聞きだすよう努めている。
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	○	ホームの理念を地域の方々に公表はしてないが、運営委員会時には話す機会がある。自然な形で顔見知りの関係ができています。
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	○	顔見知りの関係は出来ている。今後近隣の方々の御茶会などを検討したい。
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	○	自治会・行事等に参加している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	散歩時、地域の高齢者の方とは、積極的に会話を交わすようにしている。	○	今後も、積極的に交流を深め、地域の中に「たんぽぽ」があるという安心感を抱いてもらえるよう関わりを大切にしていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価を率直に受け入れ、見直し・改善に努めている。	○	
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の中で暮らしていく、交流の仕方など話題に挙げている。	○	地域行事への積極参加・文化祭への出品。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	支所の福祉課に毎月行く機会があり、情報の交換は出来ている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見制度については研修を受け学んでいる。	○	活用できるように知識を深めて行きたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルを作成し勉強会で認識を深めている。	○	(されて嫌なこと)・【言われて嫌こと】自分だったらと考え支援するように心がけている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約後も家族会・面会時に、理解を深めるよう個別に話すに時間を設けている。解約時には、生活のアドバイスを十分行っている。</p>	○	利用者や家族が話しやすいような雰囲気作りに努めている。
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>日頃より、聞き役に徹し、不満を察知できるよう心がけている。また家族水入らずで話す機会を設け、家族を通して利用者の思いをきくように努めている。</p>	○	信頼関係を築けるよう、働きかけている。
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月の御便りで暮らしぶりを写真を添え報告している。健康状態は必要に応じて電話で報告している。</p>	○	家族の方々も安心して頂けるよう、報告をしている。
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見箱の設置。相談機関の紹介。</p>	○	職員抜きでの家族会の開催で、意向を聞くことが出来た。
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>職員に相談することで、共に運営しているという意識が出来ている。</p>	○	皆で作り上げようという、雰囲気が出来ている。
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>行事・外出時は、職員の人数を増やし、安全確保に努めている。</p>	○	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>安定している。</p>	○	働き甲斐のある職場作りを職員と共に考えていく。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修案内を掲示し参加を促している。	○ 勤務扱いで研修に参加出来るよう配慮している。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	部会・研修会で情報の交換を行っている。	○ 他ホームの勉強会に参加し、参考にしている。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	日頃より、何でも話せる雰囲気作りを心がけている。	○ ストレスを溜めない為の研修を受け職員で話し合った。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	個々の実績を勉強会で報告する事で、意欲の向上につながっている。	○ スキルアップを運営者と一緒に行うことで向上心が芽生えた。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	見学を勧め、雰囲気を感じて頂き話を聞くように努めている。	○ 生活歴・性格を把握し受容の姿勢で接している。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご家族の希望を聞き、ホームで出来ること・出来ないことを話し合い信頼関係が築けるよう心がけている。	○ 連絡・相談・報告し努めている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要なサービスが何かを見極め、情報を提供している。	○	ネットワークを広げ必要なサービスを紹介していきたい。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者の趣味・嗜好を把握し環境の変化に戸惑われない様家族と相談・支援している。	○	馴染みの家具・品物を持ってきて頂いている。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	生活の主役は利用者だということをいつも念頭に置き共に支え合い生活できている。	○	人生の先輩として尊厳し、学びの姿勢で接している。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	利用者の為に何が必要かを互いに考え、家族の協力が得られている。	○	家族会で話し合う機会を設け、家族として出来る事を無理なく支援していただいている。 [衣替え・自室の掃除・庭の草むしり等ホームに関わる姿を見せることで安心感を与える]
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族会時には、一緒に料理を作り、一緒に食べ家族の時間を大切にしている。	○	遠く離れた家族には、定期的に近況を写真を添え報告し、電話で話してもらっている。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	主治医を変えないことで受診時に近隣の方と会ったり自宅に寄ったりしている。	○	
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	職員が利用者に教わり助けてもらう場面を多く持つことで、利用者間でも自然と支えあう姿が生まれている。	○	雰囲気作りをおこなっている。「職員が〇〇さんを手伝って」などの言葉かけをしている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	家族の意向を重視している。	○	気軽に立ち寄れる雰囲気作りを心がける。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケア・プラン作成時に利用者に意向を聞いているがなかなか汲み取る事が出来ない。日頃の観察で本氏の意向を汲み取るよう努めている。	○	生活歴・性格・日常の表情から意向の把握に努めている。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時・必要に応じ情報の収集に努めている。	○	職員間での情報の共有に努めている。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	アセスメントにより、把握している。	○	残存能力を発揮できるよう支援している。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	出来ている。	○	積極的な家族の意見が聞けるようホームサイドから働きかけていきたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態の変化に応じ見直している。	○	毎月の勉強会時カンファレンスをし、意見交換を行っている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の評価をプランの見直しに生かしている。	○	日常的に意見の交換を行い、勉強会等で煮詰めている。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	実施してない。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティアの琴・踊り・お茶、お方がたを受け入れた。有意義な時間を過ごすことができた。	○	ボランティアを活用し生活の幅が広がることを実感した。今後も、積極的に受け入れていけるよう働き掛けたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要であれば支援していく。	○	情報収集に努める。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進委員会時センターの方に、権利擁護について話して頂いた。	○	
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望を重視し従来からの主治医を継続し受診している。	○	往診のドクターが2名いらっしゃる。受診が困難な時の対応策を家族に説明し安心していただけるよう働きかけている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	往診のドクターに相談している。	○	利用者・家族・職員が安心できるような関係作りに努めている。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	契約はしていないが、状況を把握した相談しやすい看護師が居る。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時の面会退院後の受け入れ態勢など医師と相談し行った。	○	
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	マニュアルを作成し勉強会で認識を深めている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	マニュアルを作成し勉強会で認識を深めている。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	情報交換し不安の軽減に努めている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p> <p>人生の先輩として尊厳をもって接するよう努めている。</p>	○	オープンして3年弱、利用者・職員の入れ替わりもなくややもすれば馴合いになりがち、「親しき仲にも礼儀あり」で接している。
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p> <p>話を良く聞く姿勢をこころ掛け、自己決定を促すような言葉かけをしている。</p>	○	日頃の生活の中で自己決定の場面多く設けるよう支援している。
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p> <p>食事や入浴の時間は設定しているが、利用者の希望を受け入れ、臨機応変に対応している。</p>	○	生活のメリハリは大切に、ゆっくり利用者のペースで時間は流れている。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p> <p>パーマ・毛染め・カット本人の希望に応じホーム内で実施している。</p>	○	身だしなみを重視しいつもきれいな状態で居られるよう支援している。
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p> <p>食材選びから調理まで一緒に行い楽しく食事が出ている。</p>	○	自分が得意なことが無理なく発揮できるよう支援している。[八百屋・魚屋サンがいらっしゃる]
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p> <p>飲み物・好きな菓子などを選択できる様支援している。</p>	○	「何か食べたい・飲みたい」など問いかけている。数種類の菓子などがある時は、年長者より好きな物を取ってもらっている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄パターンを把握し、失禁を減らしオムツに頼らないケアを実践している。	○	失禁の回数が減ったり、訴えが多くなった方がいらっしゃる。(数分おきにトイレの訴えがあっても必ずお連れする。)
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	家庭での入浴時間に近づけるよう夕方からの入浴を実施している。失禁時・発汗多量時など必要に応じ対応している。	○	気の合う方同士で入浴を楽しまれている。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	就寝時間の設定はない。自室の温度・寝具の調節などで、気持ちよく眠れるよう支援している。		日中の適度な活動が良眠につながる様支援している。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	得意なことや好きなことをして頂き感謝することで張り合いが生まれている。	○	手芸品を文化祭に出したり・玄関に飾ることで部外者に褒めて頂きやりがいを感じていただいている。ホームの外に出る機会を多く持ち気分転換が出来ている。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	能力に応じ家族と話し合い、お金を所持されている方のいらっしゃる。	○	好きな物を自分で選び、支払う能力を保持できるよう支援している。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候に応じ散歩を取り入れている。利用者の方に車いすを押してもらい互いに助け合って楽しんでいる。	○	日常的な買い物等は車イスの方は、留守番になりがち、時には連れ出すよう検討したい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	毎月、みんなで車で出かけている。去年は家族と温泉に出かけてみた。少々ハードであったが喜んでいただけた。	○	高齢になられると外出も負担になられることも居る、2・3ヶ月に1回の家族会の時は、家族と楽しめるよう計画を立てている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の理解を得希望に応じている	○	御家族の理解もあり電話で話したり、季節の便りを出している。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	来訪しやすい雰囲気作り、面会時はゆっくり話せる場所を提供している。	○	家族会・便りで面会の重要性を話理解・協力を得ている。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルを作成し勉強会で認識を深めている。	○	「自分がされて嫌な事は、言わない、しないに徹している」
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	施錠せず、常に所在の確認を行っている。	○	マンネリ化しない様危機感を持って安全確認をしていく様心がける。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中は、殆んどの方がリビングで過ごされている。夜間は、施錠確認を怠らないようにしている。	○	あらゆる場面を想定し勉強会で安全確認を行っている。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	生活観を損なわず、危険な物品への配慮おこなっている。	○	家庭的な雰囲気は損なわず、危険防止には努めている。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	マニュアルを通し勉強している。特に支援を必要と思われる方は、プランにて立案している	○	転倒などがおこった時は、原因を追求し再発防止に努めている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	マニュアルを作成し、いつでも見れるようにしている。	○	定期的に訓練を実施したい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	独自に避難訓練は行っているが、地域の方々との話し合いは出来ていない。	○	自治会には入っている。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	説明し、ご家族の希望を重視している。	○	家族が後悔されない様な対応を心掛けている。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝のバイタルチェック等で気になる事があれば、申し送り・申し送りノートを活用し情報の共有に努めている	○	体調管理のポイントをマニュアルを作成し早期発見に役立ていきたい。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診の付き添いを行うことで、解らないことは、主治医に尋ねている。	○	服薬の管理をし、飲み忘れがないよう支援している
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	適度な運動と・繊維質の多い食材を使うことで、自然排便を促すよう努めている。	○	散歩・体操を毎日行っている。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の歯磨き、歯科医の口腔ケアで清潔保持を支援している。	○	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量の把握、こまめな水分補給にて健康を支援している。 粥・刻み・とろみをつける等状態にあった食事を提供している。	○	必要に応じ、水分摂取量をチェックし脱水にならない様支援している。食事量の少ない方には、好まれる食事を提供している。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルにて知識を共有している。	○	マンネリ化しないよう感染症発生時期に繰り返し勉強会を開催し意識付けを行っている。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎日調理器具は消毒している。買い置きはせず新鮮な食材を使いようこら掛けている。	○	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関にはスロープを設けプランタンに季節の花を植え明るい入りやすい雰囲気作りに努めている	○	
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	光はブラインド等で調節し、リビングより、花壇・畑を見渡すことで季節を感じることが出来るようにしている。	○	リビングよりウッドデッキに出ることができ、洗濯物を干したり、畑をながめたりと生活感を味わえるよう支援している。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人掛け・数人掛けのソファを準備し、自由に気兼ねなく使用できるようにしている。	○	各自が所定の場所を持たれている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真を飾ったり、馴染みの品を置くことで心地よい環境作りに努めている。	○	
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	風通しのよい作りのためか空気のだよみ等は感じられない。	○	エアコンは、外気との温度差を2度とし利用者の状態で調節している。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	環境を整え、廊下には手摺をつけ安全に配慮し残存能力を発揮できる様支援している。	○	一人ひとりに合った作りではないが、個々に応じた支援方法で機能を生かしている。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	混乱を招かないよう目印をつけている	○	
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダより花火をしたり・日向ぼっこをしたりと活用している。	○	季節の花を眺めたりと、色々活用していきたい。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

ホームの理念でもある「自由に」「気ままに」「ふわふわと・・・」そのためには、職員はどおいった支援をしていくべきか話し合い実践している。明るい雰囲気と・ゆったりした時間の流れ・明るい笑顔・明るい話声・なにげない毎日・優しい職員が「たんぼぼ」のアピール出来るてんです。